

24時間雨量観測史上最大を記録
大雨特別警報（土砂災害）発表



土砂の流出により通行止めになった市道神代福谷線



護岸が崩壊し通行止めになった県道鏡野久世線



河川が氾濫し冠水した県道富東谷久世線

7月6日午後7時39分、活発な梅雨前線の影響により前日から降り続く大雨のため、真庭市などに大雨特別警報が発表されました。特別警報は、重大な災害が発生するおそれ著しく高まっている場合に気象庁が発表する警報で、岡山県では初めて、真庭市を含む県内24市町村に発表されました。久世地域では6日に24時間雨量178.5mmを観測、日降水量としては観測史上最大を記録するなど、5日から7日にかけて真庭市全域で雨が降り続けました。

また、市内全域に避難勧告が、落合地域下方地区の一部には避難指示が発令され、33箇所の避難所に1701人が避難しました。市内では人的被害は確認されていませんが、床上・床下浸水、土砂の流出や路肩の崩壊などによる道路の通行止めなど、多くの災害が確認されています。今後も安全の確認を行うとともに、復旧作業を進めていきます。



国道181号・JR姫新線付近の崩落



市政に関する動きの一部を紹介します

7/10 真庭産業団地立地協定

真庭産業団地南11号地に立地が決定した鴻池運輸株式会社と、岡山県、真庭市による立地協定調印式が、真庭市役所で行われました。山陰方面に向けた物流拠点として、平成31年3月操業を予定しています。



市長室から
こんにちは!

平成30年7月西日本豪雨災害

この7月の豪雨災害による全国の犠牲者は200名を超えました。亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被害を受けられた方にお見舞いを申し上げます。

真庭市においても、家屋の浸水・損壊、農地浸水、水路などへの土石流入、道路・姫新線の不通と様々な被害がありました。8日に被災現場を視察し、未曾有の豪雨の凄まじさを改めて実感しました。

私は当然のことながら特別警戒本部、災害対策本部で指揮を執りました。刻々と変化する気象状況や旭川や備中川の水位、湯原ダムの放流を把握しながら、避難情報提供、避難勧告、避難指示（落合下方の一部）を出し、職員は避難所設置、連絡調整などに追われましたが、県をはじめ関係機関との連携、市民皆様の冷静な判断などにより、大きな混乱もなく、一人の負傷者も出ませんでした。雨の降り方も味方しましたが、何よりも皆様に感謝します。

災害対応の指揮には緊張感と孤独感が伴います。冷静に現状を把握し、次に起こりうることを予測して早めに手当てしていかなければなりません。職員や地域の動きも勘案しながら。

全員が避難所に入ることができない場合もあり、あらゆる災害に対する安全性を想定して避難所を設定している訳でもありません。今でも、避難勧告、指示などを出す難しさに悩んでいます。やはり、自助、共助、公助を円滑に連携させる以外に災害対策はないのでしょうか。今後、今回の教訓を市民の皆様とともに、しっかり活かして参ります。

なお、真庭市では、数週間前に職員に参集時間を事前に知らせない緊急招集訓練をしたこと、150余ある溜池の防災調査と対策をしていたことを付言しておきます。



看板から序幕する太田市長と河部産業建設常任委員長

北房ダム水力発電所発電開始 エネルギーも地産地消

6月29日、北房ダム水力発電所で発電開始記念式典が開催されました。看板の除幕後、発電所内のバルブを太田市長が開き、発電が開始されました。真庭市は、地域由来の再生可能エネルギーを使用した電力自給率100%を目指し、その一環として市が運営する初めての水力発電所を北房ダムに設置しました。年間の売電価格は約140万円が見込まれ、集落排水施設の維持管理費へ充てられます。



ストレッチャー対応福祉車両の説明を聞く参加者

ストレッチャー対応の福祉車両 運転手ボランティア説明会

7月4日、ストレッチャーに対応した福祉車両の運転手ボランティア説明会が開催されました。福祉車両は、平成28年度から真庭市社会福祉協議会が貸出を実施しています。この説明会は、家族で運転ができる人がいない場合などに、家族に代わって運転を行うボランティアを募集するために開かれました。参加者は、ボランティア登録をして運転をした経験者の話を聞いた後、車両の使用方法を確認するなど、熱心に学んでいました。